

# 英語科学習指導案

日時	平成19年6月7日(木)
場所	2年A組教室
対象	2年A組(男子18名、女子13名、計31名)
授業者	教諭 大槻 浩美(T1)
	教諭 北 法子(T2)
	ALT Steve Jang

## 1 教材名

Unit 3 「E-pals in Asia」(東京書籍 NEW HORIZON English Course 2)

## 2 教材について

### (1) 単元内容

#### 言語材料

ここでは、『不定詞』の3用法のうち、「目的を表す副詞的用法」と「名詞的用法」についての形・意味・用法を理解し、表現できるようになることが目標である。いずれの表現も使用する機会が多く、コミュニケーションを自ら意欲的に図ろうとする場合には有効な表現であることから、生徒の定着を確実にしたい。

『不定詞』の「目的を表す副詞的用法」では、『不定詞』の形(to + 動詞の原形)に注目させるとともに、日本語の意味との関わりを中心に指導し、定着のための言語活動の工夫により自然に生徒たちに表現力を身につけさせるよう配慮して指導するようにしたい。また、「名詞的用法」は生徒たちにとって、文法的な理解が難しい内容であることから、この単元では、“want to + 動詞の原形”を中心に扱い、文法的な説明や理解は、3年生になって『不定詞』のすべての用法を学習し終えた段階で、まとめて指導することとする。

不定詞の形容詞的用法も、生徒たちにとって日本語との違いや語順及び用法の違いなどについて理解しにくい教材である。そこで形容詞的用法では、名詞の中でも形容詞的用法で後置修飾を受けやすいthing(s), something, anything, picture(s), money, time, workに限定し、生徒への定着を図るように工夫してその指導にあたりたい。

実践的なコミュニケーション能力の育成を図る上でも、この単元で初出事項である『不定詞』は重要な言語材料であることから、定着を図るための言語活動を多く取り入れることで、生徒へのスムーズな定着に心がける必要がある。

#### 題材

この単元では、インターネットによる情報交換の疑似体験をねらった題材設定となっている。情報のテーマは「世界におけるマンガ文化」となっており、アジア諸国の子どもたちの共有の話題が取り上げられている。日本語の「マンガ」という言葉がそのまま世界で使われている点が、生徒たちには興味深い題材となっている。

生徒たちにはもっとも身近な「マンガ」の話題を通して、異文化理解に関心を持たせるのにふさわしい教材となっている。

### (2) 生徒の実態

2年A組の生徒たちは、与えられたことには真面目に取り組む、学習態度も良好であるが、静かに集中して取り組むことや、粘り強く継続して取り組むことを苦手とする生徒が多い。また、コミュニケーション能力の育成という視野に立ち、自分のことを表現しようとする能力や相手のことを理解する能力を育成するためにも、生徒と生徒、教師と生徒との好ましい人間関係の育成を教科指導の中でも意識して指導していく必要がある生徒集団でもある。

また、理解の速度の差が個々の生徒によって大きいこと、基礎的・基本的内容の定着に時間がかかる生徒が多いこと、家庭学習を含んだ自学自習の態度が身につけていないことなどが大きな課題

となっている。基礎的・基本的な内容の精選と個に応じた指導の工夫に心がけ、自ら英語で意欲的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めていきたい。

### (3) 指導構想

#### 基礎・基本の定着と個に応じた指導

本校の多くの生徒にとって、実際に英語に触れる機会は、英語の授業のみというのが実態である。そのため1単位時間の授業の中で理解できた既習事項についても、使用する機会が少ないために、その定着が図れないのが現状である。言語学習においては、その使用回数が多いことが、その定着度にも大きく関係すると考え、可能な限り、言語活動の定着練習を多くし、一方、生徒が理解できる範囲内で、授業では英語を使用するように心がけている。

また、学習形態としては、「学習シート」の使用によって、学習集団全体での練習を十分に行ってから個に返すこととし、生徒がスムーズにコミュニケーションが図れるような指導の工夫に力を入れていきたい。一方では、個に応じた指導という視点から、生徒の実態を踏まえた意図的指名や個々の生徒の実態に合った支援のあり方、自己選択の場面の工夫などを行い、生徒一人ひとりが主体的に学習しようとする意欲を育てる指導を心がけていきたい。

基礎・基本の確実な定着を図る活動として、授業の展開の後半部分に毎時間『課題問題』を設定し、学習した内容の定着を図るためのドリル的練習場面を設定し、定着できたかどうかを教師の前で確かめ、教師が評価する場面を取り入れ、できるようになるまで粘り強く取り組もうとする態度の育成に力を入れてきた。

また、『学びの連続』という視点から、『自己評価問題』(授業で学習した内容がどのくらい定着できたかどうかを確かめるための評価問題)と『自己診断』(評価問題の結果から自分で補充学習する必要がある内容を判定する)に取り組ませ、授業と家庭学習の一体化を図り、「学習サイクル」の確立と生徒が自らの課題を把握し、積極的にその解決に努めようとする態度を育成する指導の工夫に力を入れていき、『学び方』を取得させる指導に工夫を加えていきたいと考えている。

#### コミュニケーションの基本的な考え方

ア. 「メッセージを理解し、それに対して表現する」(その繰り返しがコミュニケーション)

イ. コードに乗せて送る情報 = メッセージ

ウ. コードとは、語句・文構造・慣用的な表現・文化などの約束ごと

エ. 英語科における「基礎的・基本的な内容」 = コード

#### コミュニケーション能力

ア. メッセージを自分で作り出し、人から与えられたメッセージを受け取り、それに対して新しいメッセージをまた作り出す能力

イ. 言語操作能力

ウ. 文と文を組み合わせる能力

エ. その場に合った表現ができる能力

オ. 会話を楽しく、続行しようとする人間的豊かさ

### 3 指導の目標

#### 【関心・意欲・態度】

コンピュータにはどんな使い方があるかを考え、関心を持ち、自分から進んで知ろうとする。

韓国とタイの「マンガ」事情や香港で行われた「アジア・マンガサミット」などの話題を通して、日本の文化である「マンガ」から異文化をより深く理解しようとする。

『不定詞』を用いた表現活動に積極的に取り組もうとする。

学習した内容をしっかり身につけるために、自ら進んで学習活動に意欲的に取り組もうとする。

#### 【表現の能力】

『不定詞』の「目的を表す副詞的用法」の英文を用いて、自分の生活について表現することができる。

『不定詞』の「名詞的用法」の英文を用いて、将来の夢や希望などについて表現することができる。

日常生活でのちょっとした話題について、簡単な英文を用いてメールを書くことができる。

【理解する能力】

『不定詞』（「目的を表す副詞的用法」・「名詞的用法」）を用いた英文を聞いたり、読んだりして、その内容を理解することができる。

「マンガ」のアジアの状況に関する英文を聞いたり、読んだりして、日本との違いを理解することができる。

【知識・理解】

『不定詞』（「目的を表す副詞的用法」・「名詞的用法」）を用いた英文の形・意味・用法を理解し、英文をプロダクトするための知識がある。

アジアの国々の「マンガ」文化の事情を通して、日本との違いや同じアジアの仲間について理解することができる。

4 指導計画

1	Starting Out	1 時間（本時）
2	Dailog	2 時間
3	Reading for Communication 「メールで返事を出そう：Cool」	2 時間
4	Reading for Communication 「メールで返事を出そう：Sea」	2 時間

5 本時の指導

（1）本時の主題

Starting Out 「学級内の生徒のコンピュータの使用目的をまとめた説明文」

（2）本時の目標

『不定詞』の「目的を表す副詞的用法」の英文の形・意味・用法を理解し、表現することができ、コンピュータの使用方法についての理解を深める。

（3）観点別評価目標

関心・意欲・態度	ア．授業に集中し、意欲的に言語活動に取り組もうとする。 イ．授業で学習した内容を定着させるために、自ら進んで課題学習活動に取り組み、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
表現の能力	ウ．授業で学習した英文を用いて、表現することができる。 エ．新出語句や英文を、正しい発音でナチュラルなスピードで音読することができる。
理解の能力	オ．『不定詞』（目的を表す副詞的用法）の英文を聞いたり、読んだりして、その内容を理解することができる。 カ．教科書のおおよその内容を理解することができる。
知識・理解	キ．『不定詞』（目的を表す副詞的用法）の英文の構成を理解することができ、作成する方法を知ることができる。 ク．コンピュータのさまざまな活用方法についての理解を深めることができる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	学習形態	指導上の留意点
導入 5分	1. 復習	1. JETとALTとの対話を聞き、最近の生活の様子を表す英文から情報を収集する。 ・JETとALTとの対話	一斉	本時への課題へとスムーズにつながるように話題を提供する。
展開 38分	2. 本時の学習課題	2. 学習課題の設定 『目的』や『理由』をつけ加えた英文を作ろう。	一斉	本時の学習課題が自然に設定できるように、場面提示に配慮する。
	3. 本時の新出文の提示し、その英文の構成についての確認	3. 本時の新出文である『不定詞』(目的を表す副詞的用法)の英文を見て、その構成を理解する。 ・学習シートで基本文の確認をする。	一斉 個人	学習シートを用いて、全体で大切な事項や注意すべき点について確認する。 (評価オ、キ)
	4. 定着を図るための活動	4. 【定着問題】に取り組む ・学習シートの【定着問題】に取り組む、新出文の理解を深める。	個人 一斉	一人ひとりの定着度を確認しながら、次の課題へと進むように心がける。 (評価ア、ウ、キ)
	5. 教科書の内容理解	5. 教科書の内容を聞いて、おおよその内容を理解し、音読する。 ・New Words の意味を確認し、正しく発音する。 ・教科書の内容を聞いて、その内容を理解する。 ・本文をナチュラルスピードで音読するように練習する。	一斉 個人 一斉 個人	フラッシュカード使用。 (評価エ) 学習シート使用。 (評価カ、ク) 自然な速度で内容を理解させながら音読させる。 (評価ウ、エ)
	6. 課題解決とまとめ	6. 定着のための《課題問題》に取り組む、教師のところへ行き、評価を受ける。	個人	全体での練習を十分にを行い、個々の生徒が個別に取り組めるように心がける。 (評価ア、イ、ウ、キ、ク)
終末 7分	7. 自己評価問題と家庭学習の計画化	7. 「自己評価問題」によって、今日の学習内容の定着度を自分で評価し、家庭学習の計画を立てる。	個人	挙手によって、生徒の定着度の全体的傾向をチェックする。

(5) 授業の評価

生徒の実態に応じた課題設定・指導過程が組まれていたか。

個々の生徒に十分に配慮した教師の動きであったか。

TT及びALTによる指導の効果が図られるように工夫され、よくなされた授業であったか。